

OB 通信

鳳 翩

復刊 25 号
=2019 年 12 月=



山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

鳳翩会

もくじ

			ページ
1	会長挨拶	鳳翔会会長 古谷真之助	1
2	2019年総会(山口)議事内容		2
3	2020年総会(福岡)について	九州支部長 龍 純二	4
4	総会を終えて	S55 工卒 S57 工卒 三國 彰 田原 宏	5
5	エッセイ		
	2019年度総会に参加して(SL山口号に乗って思ったこと 関西支部長)	池田 純	8
	釣りバカ親父の釣りing日誌 No.1	S61工卒 浅野 哲郎	9
	2019高山登頂記	S47文理卒 恵谷 浩	11
6	近況報告		
	「丘の上 幸西ワイナリー」オープンしました	S53工卒 幸西 義治	13
	近況報告	S48経卒 小田 次郎	14
	私のプチ旅行記	H26農卒 川地 翔子	16
7	同期会報告 昭和57年度卒の同期会	S57工卒 田原 宏	18
8	現役報告		
	2019年度 夏合宿報告	農学部2年 佐々木 結香	19
	ピストン組	人文学部2年 炭本 円	20
	2019年度 海合宿報告	人文学部2年 仲村 茉奈	21
9	事務局挨拶	人文学部4年 三井 大明	21
10	OBの皆様へお願い		23
11	本部・支部役員名簿		24



【山口市・枕流亭】

【お断り ご投稿いただいた原稿は、編集の都合上、文字、写真レイアウトなど変更した部分があります。ご了承下さい】
【表紙イラスト 2020年創建500年を迎える山口大神宮 Illustration by S. Furutani】

1. 会長挨拶

古谷眞之助

年の瀬を迎え、鳳翔会会員各位におかれましては何かとあわただしい毎日かと拝察いたします。常日頃よりOB会の運営につきましては暖かいご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。今年の秋の山口での総会では会員60名にご参加いただき、その後の懇親会では現役生20名も加わって、かなりの盛り上がりとなりました。またウォーキングイベントでは、恒例の東鳳翔山登山に加えて、鴻ノ峰歴史探訪登山、キャンパスの変貌ぶりを実感できる山大散策の計3コースを用意したところ、延べ63名の方が参加。こちらもお楽しみいただけたのではないかと考えております。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

さて、その総会において会長職を再任されました。さらにあと2年、皆さまのご期待に沿えるよう頑張りたいと思いますので、どうぞ引き続きご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

まずはこれまでの2年間を振り返らねばなりません。当初目標として掲げていたことは、①会の財政安定化と会計事務を現役学生からOB会会計役員への移行、それに伴う②役員組織の強化、さらには③HPの有効活用、④同期会の活発化などでした。①については支出の大部分を占めるOB通信印刷費を大幅に削減でき、また役員の旅費支給を一旦停止すること等により単年度黒字化を達成し、かつ引き続き黒字を継続できる体制を確立することができました。また会計事務につきましては、昨年5月より現役生からOB会会計役員への完全移行を終えました。②役員については負担軽減の観点から従来に比べて大幅に増員し、現在会長以下11名体制を取っています。今後ともこの体制を続けていく所存です。また③については、総会、OB通信発行時には常にその利用を訴えてきたところですが、相変わらず利用頻度は低迷していますし、「紙ベースのOB通信不要」と申し出られた方も皆無の状態です。鳳翔会HPには毎回のOB通信のみならず、これまでのYUWV発行物の総てが掲載してあります。おそらく記録という観点では、これほど充実したワングルOB会のHPは他大学にも類を見ないのではないかと考えています。是非ご利用、ご活用下さい。④については、今号に掲載するものみのみですが、同期、ないしはその前後2~3年のメンバーも含めた同期会の活発化を期待したいところです。まずは、まだ一度も開催していない私の代の同期会を開催すべく現在色々と画策しているところです。

今後の2年についての方針を述べておきます。といて特に大きな方針変更はありません。①引き続き経費削減に務め、財政安定化に務めます。②HPが単なる「記録」的要素だけでなく、気軽に近況報告や情報交換のできる場になれないか、その方向性を探ります。③同期会はもとより、支部活動の活性化のため、県別会員数リストを作成して、新支部発足、支部活動に参加していない方へのアプローチを志向して行きます。というのも、私はどの支部に所属しているのかわからないという会員からの声があったからです。以下はあくまで私案にすぎませんが、県別会員分布状況、交通の便を勘案した支部編成案です。もちろん固定的に考える必要はなく、線引きはフレキシブルであって良いと思います。また新に「中国支部」としたのは、広島県に18名のOBがおられ、県別では山口、福岡に次ぐ人数であり、新支部創立はどうだろうか、という個人的思いからです。もちろん、いきなり総会開催は無理でしょうから、とりあえずは組織形成から始めていただければと考えています。この件については次回総会で提案したいと考えています。【支部編成案】

来年は鳳翔会創立20周年となります。是非、福岡で多くの方にお会いしたいと願っています。別項でもお知らせするように、すでに開催日も決定しておりますので、万難を排してご参加いただければ幸いです。

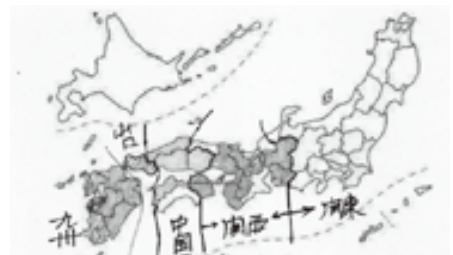
最後になりましたが、来期役員の異動についてお知らせ致します。

- 新任 三國 彰 副会長兼会計担当 S55 工学部
- 新任 田原 浩 幹事兼山口支部長 S57 工学部
- 新任 浅野哲郎 幹事 S61 工学部

- 退任 徳田宏子 幹事 S57 教育学部

それでは皆様、どうぞ良いお歳をお迎え下さい。 以上

青森	1	岐阜	2	島根	3	福岡	34
茨城	1	愛知	1	岡山	3	佐賀	2
栃木	1	滋賀	2	広島	18	長崎	2
群馬	1	京都	2	愛媛	2	熊本	2
埼玉	4	大阪	12	中国支部	26	大分	2
千葉	18	兵庫	14			宮崎	2
東京	15	奈良	4			鹿児島	1
神奈川	7	和歌山	2				
長野	1	香川	1				
		徳島	1				
関東支部	49	関西支部	41	山口支部	49	九州支部	45



2. 2019年 鳳翔会総会（山口）

2019.10.19(土) 17:30～ 於 湯田 翠山荘

今年度総会においては以下のような議案が提出され、討議の結果、それぞれの議案は賛成多数により承認されました。なお、議長には野村英昭さん(S47文理)が選任されました。

第一号議案 2018年会計決算報告書及び会計監査報告の件

添付資料「収支計算書」「貸借対照表」「監査報告書」を参照願います。

2018年1月1日から12月31日までの収支計算書は、収入の部合計が416,000円で、2018年入会費44,000円と2018年預り金会費振替372,000円です。支出の部は、OB通信発送費8月に95,333円、12月に87,356円の合計182,689円、OB総会関連49,280円、その他の経費119,578円で、支出の部合計は351,547円となりました。

従って2018年収支はプラス64,453円となり、前年度の単年度赤字から脱却することができました。前年度繰り越し剰余金は435,392円であり、これに当年収支をプラスすると翌年度繰り越し剰余金は499,845円となりました。

収支計算書(2018年1月1日～12月31日)

		(単位:円)	
			比率
収入の部	2018入会費	44,000	
	2018年預り金振替	372,000	
	収入の部合計	416,000	100%
支出の部	印刷、封筒、インクカートリッジ、コピー代	48,813	
	OB総会案内葉書代	14,880	
	郵送代	31,640	
	OB通信発送協力費	0	
	2018年OB通信8月号関連小計	95,333	22.9%
	印刷、封筒、インクジェット、マスターインク他代	56,806	
	郵送代	30,550	
	OB通信発送協力費	0	
	2018年OB通信12月号関連小計	87,356	21.0%
	OB総会役員参加助成費	0	
	OB総会現役参加助成費	49,280	
	OB総会関連小計	49,280	11.8%
	ホームページ運営費	5,648	
	追いコン差し入れ(酒・花)	12,751	
	新入生勧誘助成費	50,000	
	海浜合宿助成費(款)	30,000	
	事務用品費	3,299	
	参加助成費	1,600	
	寄付金	5,000	
	事務局費	10,000	
雑費	1,280		
その他経費小計	119,578	28.7%	
支出の部合計	351,547	84.5%	
収支			
	2018年収支	64,453	15.5%
剰余金	前年度繰り越し	435,392	
	翌年度繰り越し	499,845	

貸借対照表(2018年12月31日現在)

次に、2018年12月31日現在の貸借対照表についてご報告いたします。資産の期首残高は1,553,392円、現金の期首残高は0円、当年増加205,918円、当年減少205,918円で、現金の期末残高は0円となります。預金の期首残高は1,553,392円、当年入金会費等の増加404,000円、当年経費支出等による減少211,566円で、預金の期末残高は1,745,826円となります。

会費預り金の期首残高1,118,000円、当年会費入金404,000円、当年会費への振替416,000円であり、会費預り金の期末残高は1,106,000円となります。従って負債の期末残高は1,106,000円となります。なお、会費預り金1,106,000円の2019年以降の内訳は期末残高のとおりとなります。剰余金の期首残高は435,392円、当年の収支はプラス64,453円であり、剰余金の期末残高は499,845円となります。以上から負債と剰余金を合計した期末残高は1,745,826円となります。

		(単位:円)			
科 目	期首残高	当 年		期末残高	
		増加	減少		
資産の部	現金	0	205,918	205,918	0
	預金				
	広島郵便貯金センター	1,553,392	404,000	211,566	1,745,826
	預金計	1,553,392	404,000	211,566	1,745,826
資産合計		1,553,392	609,918	417,484	1,745,826
負債の部	未払費用	0	351,547	211,566	139,981
	会費預り金				
	2018年	372,000	44,000	416,000	0
	2019年	260,000	99,000		359,000
	2020年	174,000	87,000		261,000
	2021年	139,000	64,000		203,000
	2022年	73,000	52,000		125,000
	2023年	32,000	42,000		74,000
	2024年	26,000	4,000		30,000
	2025年	18,000	4,000		22,000
	2026年	8,000	4,000		12,000
	2027年	4,000	4,000		8,000
	2028年	2,000	0		2,000
	2029年	2,000	0		2,000
	2030年	2,000	0		2,000
	2031年	2,000	0		2,000
	2032年	2,000	0		2,000
2033年	2,000	0		2,000	
2034年	0	0		0	
2035年	0	0		0	
2036年	0	0		0	
	会費預り金計	1,118,000	404,000	416,000	1,106,000
負債合計		1,118,000	755,547	627,566	1,245,981
剰余金	剰余金	435,392	64,453	0	499,845
負債及び剰余金合計		1,553,392	820,000	627,566	1,745,826

第三号議案 役員の改選について

「鳳翺会 会長等役員選出要領」に従い、田村副会長が選挙委員長となって、以下の選挙人によって選挙を実施いたしました。その結果は以下のようになっています。

【鳳翺会 会長選考委員】

古谷会長、田村副会長、田中幹事、石川幹事、三国幹事、坂田幹事、徳田幹事、平野監査、齊藤監査、城戸東京支部長、池田関西支部長、龍九州支部長の合計 12 名

【選考結果】

古谷 眞之助（現会長） 昭和52年 経済卒 11票
棄権 1票

この結果に基づき、総会において古谷現会長が再任されました。

第四号議案 2020年総会開催地の件

総会開催履歴

2015年度開催	山口支部
2016年度開催	九州支部
2017年度開催	関西支部
2018年度開催	東京支部
今年度 2019年度開催	山口支部

これまでの順番を考慮すれば、2020年総会開催は「九州支部」での開催の順番となります。そこで龍九州支部長にご意向を尋ねたところ、すでにその方向で準備を進めているとのこと快く了承いただきました。

以上で今年度総会の議事は滞りなく終了いたしました。

3. 2020年 鳳翺会総会（福岡）開催について

九州支部長 龍 純二

来年のOB総会は新生OB会「鳳翺会」になって20周年を迎える記念総会になります。

開催日：2020年10月17日（土）～10月18日（日）

開催場所：太宰府・二日市温泉を予定しています。

新元号「令和」の典拠は「大宰師の大伴旅人が催した『梅花の宴』で詠まれた歌（万葉集）の序文」とされ、大伴旅人邸の候補地の一つ坂本八幡神社に今年注目が集まりました。

過去 2008 年に太宰府でOB総会を開きました。今回、宿泊場所は二日市温泉のホテルを予定しています。二日市温泉は万葉集にも詠われた古くからの温泉です。山は近くに菅原道真公にゆかりのある天拝山があり、健脚向けには宝満山が待っています。令和の里で鳳翺会創立20周年を大いに祝いましょう。皆さんの参加をお待ちしております。

ということで、来年の予定に20周年記念総会をしっかりと組み込んでいただきますようお願い致します。

2020年10月17、18日 福岡大宰府・二日市温泉

4. 総会を終えて

S55 工学部卒 三國 彰

S57 工学部卒 田原 宏

2019年 OB 総会・懇親会(10月19~20日)は山口支部の引き受けて山口市に於いて開催しました。準備が始まったのは1月の準備会(実行委員会)からでした。今年度はウォーキングイベントとして昔懐かしい山口を堪能してもらうため3つのコース(東鳳凰山登山コース、亀山・鴻ノ峰コース、山口大学散策コース)を選定しました。それぞれのコースにおいて下見山行・トレッキングを実施しました。数回にわたる実行委員会の際にコースの時間配分、自家用車の人員配置等詳細な計画をたててまいりました。

初日の10月19日は天候にも恵まれ、亀山・鴻ノ峰コース(23名参加)、山口大学散策コース(6名参加)と爽やかな秋の1日を楽しむことができました。総会・懇親会参加は60名となり、ご参加の皆様には感謝を申し上げます。

亀山・鴻ノ峰コースは山口駅にて(12:00)皆さんを出迎え、全員集合したところで古谷会長からコース概要を説明後、駅前通り、パークロードをウォーキングしてリニューアルされた亀山公園山頂広場へ向かいました。山頂広場は小高い丘にあり、とても眺めの良い場所で県庁やパークロード周辺の展望もきくようになっており、山口市の移り変わりを実感できたのではないかと思います。山口大神宮からの鴻ノ峰へのコースはかなり急な登りのため十分に準備体操をした後、登山を開始しました。急な登りで途中視界が開け、山口県庁舎を真下に見ながら登っていくと、ようやく高嶺城跡に到着し、テレビ・ラジオ送信所の側を歩いて山頂に向かいました。半分以上は急な石段登りとなるコースで、見た目よりは、かなり厳しい登山道であるというのがわかりました。(皆さんもきっとそう思ったことでしょう。)鴻ノ峰山頂では「続日本100名城」に選ばれた「高嶺城跡」が残っています。

この度は、山口市歴史民俗資料館の増野専門員に大内氏に関連する歴史的なお話を交えて高嶺城跡の解説をしていただきました。懇切丁寧な解説と山頂からの山口市の展望は深く印象として残ったのではないのでしょうか。高嶺城跡地にて集合写真を撮影した後は、車道を木戸公園奥駐車場までゆっくり下り、無事鴻ノ峰登山を終了しました。



【亀山公園にて】



【鴻ノ峰山頂にて】

山口大学散策コースはで2日間にわたり多くのOBに出席いただきました。参加者は初日が6名、2日目13名でした。初日は湯田温泉駅に集合(13:00)、2日目は翠山荘ロビーに集合(9:00)後、山口大学駐車場まで車で移動、トレッキングを開始しました。「共育の丘」周辺は大学会館裏手の山の整備により新しくできた散策コースです。田中さんよりコース概要を説明した後、共育の丘のモニュメント周辺を散策、ふだん立ち入ることができない農道を通り、農学部付属農場・果樹園ののどかな風景をながめながらトレッキングしました。果樹園裏の小高い丘に着くと広大な山大キャンパスおよび周辺の山口市の風景を望むことができました。集合写真撮影後、学内に向かって散策、途中リニューアルされた榎野寮、国際交流センターのそばを通りました。図書館の喫茶室で休憩後、昔懐かしいキャンパスや研究棟を見ながらウォーキングしました。最後はワンダーフォーゲル部の部室の中に入り、昔の活動を思い出しながら語り合いました。



【10月19日参加の皆さん 共育の丘にて】



【10月20日参加の皆さん 農学部実習農場にて】

翠山荘では18:00から懇親会を開始。まず「ワグネルフォーゲルの歌」を合唱した後、古谷会長の挨拶、山口支部を代表して木山さんに乾杯の音頭をお願いしました。会が始まり山口大学本学部ワグネル顧問の池田先生に挨拶をいただきました。また各支部長からは現状報告を兼ねて、各支部の様々な活動状況について報告がありました。参加してもらった現役生(20名)には「山口ボンボン」を踊ってもらいました。

その後現役生も交えて全員で円をつくりともに「旅鳥」を合唱しました。最後にUターンで山口支部の新会員となられました熊谷さんにご挨拶と万歳三唱、田村副会長の閉会挨拶で懇親会を終了しました。二次会は和室にて夜遅くまで盛り上がりました。



【恒例の旅鳥斉唱】

翌日も天候に恵まれ、鳳凰山登山と山大散策(前述)を実施しました。東鳳凰山登山コースは2日目の8:00過ぎに翠山荘を出発して、一の坂ダム広場で、石川さんの指導のもと準備運動を行いました。まずは、二ツ堂まで元気よくウォーキング気分歩いて行き、一息ついて二ツ堂の登山口か



【会場・翠山荘ロビーで記念撮影】

ら直登をゆっくりと登っていきました。いつ登っても、この二ツ堂の登り始めはつらいという言葉が口癖のように出ていました。約1時間程度歩いて、東鳳凰山が見えるベンチを通り過ぎ、一の坂ダムの見えるベンチで1本をとりました。久しぶりに登られた方は、東鳳凰山にはあんなに木が生えていたかな?と聞かれ、地元のOB会員が、40年前は山肌が見え木も生えていない頂上でしたが、この40年のうちに栄養を蓄えて木が生えてきました、と説明していました。この40年で随分変わった様子に驚かされていました。それから2本目は肩でとりましたが、ここも40年前とは随分変わり、ベンチが設置してある状況でゆっくり休める環境が整備されています。肩から頂上までは、長い階段をひたすら約30分登りました。以前は山肌が見

える足元の悪い登山道でした。工学部のOBからは、工学部は秋に月見山行という行事があり、月を見ながら夜に東鳳山に上っていた。頂上では、酒を飲んだ勢いで地獄車をしてころげて下に落ちていたと思い出話を語っておられました。頂上では、現役のWV部員の美女4人（右の写真）にドリップコーヒーを入れていただき、格別おいしいコーヒーを飲みながら、頂上からの景色をゆっくり楽しむことができました。13人分の水の入った大きなポリタンと鍋を頂上まで持ち上げたたくましい現役部員に感謝でした。男性部員よりもたのもしい感じがしました。これからは女性部員が山大WV部を引っ張って行くことを期待しています。山頂で昼食をとり、ゆっくり休んでから14時までには、怪我もなく無事に下山することができました。



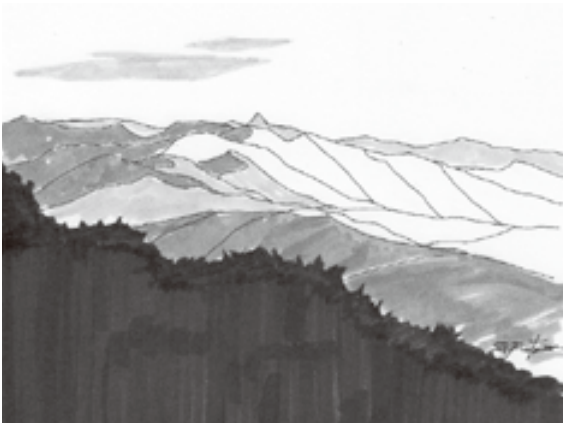
【懐かしの東鳳山山頂にて】

お忙しい中、ご参加いただいた皆様ありがとうございました。お陰で楽しい二日間を楽しく過ごすことができました。来年は九州支部で再会できることを楽しみにしています。

最後に、山口支部の皆様、ご協力ありがとうございました。OB総会を無事終了することができました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



【山頂で待機してコーヒーを準備してくれた現役生に感謝！】



5. エッセイ

2019年度総会参加して（SL山口号に乗って思ったこと）

池田 純（S51年 工 機械）

今年度の総会は、山口地区で開催されたが中学まで山口に在籍していた筆者にとってやはり特別なものがある。ゆっくり移動したいので最近山口入りは船を使うのだが、船の楽しみは海上から幼少の頃に過ごした故郷を見られることにある。筆者は工学部のある宇部市のとなり、小野田市（現山陽小野田市）の大浜というところで育つ。船からは竜王山やよく遊んだ砂浜が良く見え、感慨無量。当時は炭鉱の町で、ぼたを運ぶトロッコの線路を渡ればすぐ海で、石炭を積んだ沖合の機帆船の往来をよく見た。今はすっかり寂れ、石油の備蓄タンクとがらんとした空き地があるだけ。寂しい限り。この子供のころの境遇から石炭で動く蒸気機関が大好きで当然SL（蒸気機関車）も大好きである。

総会当日、船で来ると早朝門司に着く。時刻表を見ると時間的に山口号に乗れそうで、何とか指定席も取れたので、小郡じゃなかった新山口から山口駅まで乗ってみることにする。ご存じ山口号はSL C571の引く観光列車で機関車は最近再整備され、不格好な集煙装置も取り外され貴婦人と呼ばれるにふさわしい姿に戻されている。C57は高校通学時の列車を引いていた機関車のため特に思い入れもある。牽引する客車も昔の青い12系から12系改造客車を経て最近リニューアルされている。形式もオハ35とあるがもちろん旧型客車であるわけなく、今の安全基準で作られたレトロ風だが、自動ドアで冷暖房完備その代わり窓は締め切りとても快適である。昔のように満員の時デッキから身を乗り出して乗車なんてことはできない。空調用のディーゼル発電機がうるさくちょっと興ざめ。電車とは比べ物にならないほどスムーズに走り出す。大変な人気で沿道でたくさんの人が手を振ってくれる。山口の人は親切である。こちらも手を振る。山口駅について機関車を見に行く。通常は機関士と助手の2名乗車が基本だが今日は4人おそらく+2名は実習だろう。マスコン一つで動く電車と異なり、蒸気機関車の運転は複雑で速度に合わせ蒸気絞り弁を開放、同時に逆転機のハンドルを回す。機関車のピストンと前後連動して、上部のスライド弁が同じように前後に運動し、複雑で見飽きないが、先ほどの逆転機はこのピストンの連接棒とスライド弁をリンクでつなぎ、ハンドルを回すことにより位置関係を調節できる。速度が速くなるとスライド弁の締め切り比を変えて、効率よく蒸気を膨張させることが必要となる。山口駅では助手（あるいは研修生？）がガンガン投炭していた。山口からは上り勾配が続くので、ここで蒸気をためておく必要が



あるのだろう。たちまち安全弁から蒸気が噴き出す。投炭は片手で行うのが基本。火床に石炭を万遍なくたたきつけるようにしないと燃焼が不十分でシンダ（すす）が出やすい。大学では蒸気原動を履修したので、少しうんちくを言うとSLの動力は実は効率としてはよくない。石炭の持つエネルギーの5、6%しか動力に変換されない。火室に寸法的な制限を受けるので燃焼効率が良くなく、低熱源側に復水器がないため排気される蒸気にはまだ十分なエネルギーがあるにも関わらず捨てられる。同じ蒸気機関でも石炭火力発電の効率は40%、したがって送電効率、電動機効率を加味しても電車の効率は30%ぐらいある。老齢の機関士が厳しい目で、機関車の状態、ホームの安全確認、出発信号を指差呼称確認し山口駅を出て行った。

大学時代に所属した鉄道研究会で小郡の操車場を見学する機会があり、SL体験乗車（D51）のあと場内を見学した。機関車にC62のファーストNO. C621が保管されていた。もうすでにこの時は休車状態で長らく留め置かれていたが、今は梅小路機関区（京都鉄道博物館）で静態保存されている。子供の頃に山陽本線はまだ電化されておらず、幹線で輸送量が多いため客車はもっぱらこのC62が牽引していた。夏休みにはよく親戚の家に遊びに行ったが、楽しみの一つはこのSLを見ることで、当時は窓が開放できたので、カーブでは首を出して動輪の動くさまを眺めて喜んでいた。C62で有名なのはやはりC622で、特急つばめをけん引していた名残で、除煙板（デフレクター）につばめマークが取り付けられており、このため現在でも運転可能な動態保存機として京都鉄道博物館で煙を吐いている。ただ本線の走行は無理なようで、スティーム号の牽引機として子供たちを乗せて力をもてあそびながら構内をゆっくり走行している。

産業遺構として人類最初の熱機関動力SLが各地で動態保存されていることは大変喜ばしいことである。

「釣りバカ親父の釣り ing 日誌」 No. 1

浅野 哲郎（S61 工学部）

皆さん、こんにちは。山口支部の浅野です。釣りにハマって早何年が経ただろうか。私のFishing styleは、もっぱら岸からブリ、ハマチ、ヒラマサといった青物をルアーと呼ばれるメタルジグや魚を模したペンシル等で仕留めるショアジギングです。いつしか釣り道具を110CCバイクに積載し、東へ西へ・・・気付けば「しまなみ」にまでその行動範囲を広げて今に至っています。2013年10月に初めて「しまなみ」を訪れて以来、すっかり瀬戸の島々の魅力と小型バイクによる「一人キャンプ&ツーリング(略して、キャン釣りing)」の虜になってしまいました。今では少なくとも月に一度、多ヶ月で毎週毎に、「しまなみ」を訪れ「キャン・ツー」で、非日常を楽しんでいます。すっかり非日常から日常になってしまった感もありますが・・・。ということで、本稿を「釣りバカ親父の釣り ing 日誌」と題した記念すべき第1稿とさせて頂き、不定期ながらも「しまなみ」をテーマとした連載形式の投稿で、鳳凰会への近況報告とさせて頂こうと考えています。

通常の旅の装備は、右の写真の如く、テント、シュラフ、マット、エッセン装備、釣り道具、他ですが、つい最近、小型の薪ストーブを購入し今年の年末から年始に掛けては、テント内で雑煮でも作ろうかと計画中です。

ちなみに、周南市から「しまなみ」のお気に入りのキャンプ場までは、極力、国道2号線を避けて次のルートを使っています。自宅～R2～新岩国駅～r1～玖波～大野IC～新幹線高架



下～阿品台・廿日市～r247～広島市内の 4 本の川を横切り、再び R2 へ合流～R31・r34～熊野・黒瀬～r34・r353～安芸津～R185～竹原經由～忠海～フェリー（大久野島經由）～大三島・伯方島～秘密基地まで、5 時間弱の旅程です。同じ旅程で日帰りすることも過去 3 回あり、HONDA Cross Cub は愛馬の如く頼もしい相棒です。

ここで我が相棒の紹介をします。2013 年 10 月からの初代 Cross Cub(総走行距離 53 千 km) から昨年 11 月 1 日より 2 代目 Cross Cub へ乗り継ぎ、本年 11 月 17 日までの 2 代目 Cross Cub の累計データは次の通り。走行距離 13,305km、燃料代 32,521 円、平均燃費 58.4km/L は、真に輸送用機器の 1 シリーズとして世界最多の生産台数と販売台数(2017 年 10 月に 1 億台達成)を誇るホンダの Super Cub が、技術立国日本の象徴であることを表していると思います。

さて、第 1 稿ということで、「しまなみ」について簡単にご紹介します。下の写真(No.1)に示すように、本州尾道と四国今治の間を 6 つの島(本州側より、向島、因島、生口島、大三島、伯方島、大島)が数珠つなぎに並び、海流激しい瀬戸内海に白亜の線を描く 7 つの大橋が島をつないでいます。自転車道、高速道路を通過した際に誰もが、その自然の造形美に重なり合う島影の優美さと、巨大な橋の融合は、唯一無二の存在としての日本の美しさを感じているはず。 「しまなみ」という独自の光景を造り出しながらもなお、その魅力が止まりません。(八重洲出版「じてんしゃ旅」より参考)



前述の私の小型バイクは、こうした橋に併設された歩行者及び自転車道を通行することができ、島の人々の重要な足となっていると同時に、サイクリストの聖地と呼ばれるのと同じように、原付バイクの聖地とも呼ばれて日本中から毎日多くの旅カブがやって来ます。私の出会った限りでは、北は、北海道、南は小笠原・父島、東は埼玉、西は石垣島からの老若男女の旅カブさん達や国内外の外国人達です。潮風を顔に受け、海面のきらきらした日差しに目を細め、訪れる人々皆が、きっと同じ感情を共有しているだろう「しまなみ」の魅力は、掛け替えのない日本の宝でもあります。

本稿最後として、今後の連載計画を次のように考えています。村上水軍に知られるよう「島々の歴史」、「島々を結ぶ橋」、造船を代表とする「海運業のしまなみ」等々、決して文才や絵心に長けた私ではないですが、鳳翔会会長かつ山口支部長である古谷氏を影ながら師と仰ぎつつ、自分の隠れた才能を開花さすべく、また、鳳翔会ホームページHP等を通じて皆様に楽しんで頂ければ幸いです、気楽にやっつけていこうと思っていますので、現役、社会人前後半の方々、まだまだ若い者には負けんと元気な方々、引き続きよろしくお願致します。と締め括り、次回ご期待下さい。

以上

2019 年高山登頂記

東京支部 昭和47年卒 文理 恵谷 浩

(1) 比婆山

広島県立福山工業高校機械科昭和37年卒同級生で福山市在住の2名と広島県庄原市と島根県との境にある比婆山に登りました。

7月18日(木)：前日泊めてもらった同級生宅を6:35車を出発。9:25 県民の森公園センター着。10:20 雨ガッパを着て小雨の中を登山開始。登山中、誰一人として出会うことなく、雨が次第に激しくなり、登山道はちょっとした沢を上っているよう。筆者はマラソンシューズ。11:30 出雲峠978mの避難小屋で昼食。尾根に上るとブナの古木・巨木が多数、13:25 鳥帽子山頂上1225m。糸溝石などを見て下った後、流れ落ちる水のぬかるみを登ると、14:29 比婆山御陵頂上1264mに到達。7本のイチイの老木に取り巻かれたイザナミノミコトの陵墓がある。越原越に向け下る途中、太鼓岩、産子の岩戸に寄り、降り続ける雨の中、大岩谷林道を公園センターへ下る。17:30 公園センター着。直ぐに風呂に入り生き返った心地。広島牛ステーキ、刺身等々地元の食材を使った豪勢な料理。大ジョッキビールで雨中の健闘・登頂を祝い乾杯。筆者と1名はもう一杯。他の1名は酒の熱燗。1泊2食付13,800円。

7月19日(金)：7:30起床。朝食後、センターの人にシャッターを押してもらい初めて3名揃った写真を撮影。10:00 センター出発。なお、この後、小雨が降る中を広島県府中市にあり、巨岩・奇岩が多い岳山738mに登りました。



【鳥帽子山山頂にて】



【イザナミノミコト陵墓】



【公園センター前にて】

(2) 北ハケ岳・蓼科山

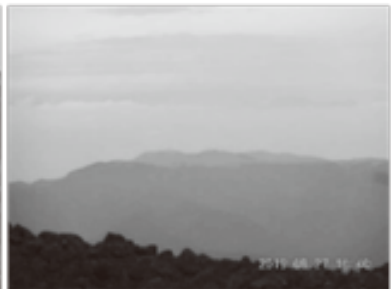
山口大学文理・物理昭和47年卒同級生2名と一緒に、ハケ岳連峰の最北端にあり、諏訪富士とも呼ばれ日本百名山の一つとなっている蓼科山2531mに登りました。

8月27日(火)：東京都と福岡県に在住の2名と茅野駅からタクシーに乗り、10:04 七合目登山口1900mに着。曇空の下、10:45 馬返しに着。シラビソやツガ、カラマツなどの針葉樹林帯を上る。12:07 天狗の露地。12:50 将軍平。この天候では登山者が少なく頂上での3名そろった写真は望めそうになく、蓼科山荘前で休息中の人にシャッターを押してもらった。しばらく進むと一段と急登で大きな岩がゴロゴロ、鎖場も、ストックは使えなくなり、両手を使い必死によじ登る。付近はすっかり低木となり、前掛山が望めた。14:49 蓼科山頂ヒュッテに達した。チェックインの後、15:17 感激の蓼科山頂上に到達。しかし残念ながら、雲と濃霧の中。山頂は噴火口跡で、非常に広く、岩石が濃霧中見渡す限り広がり、荒涼たる光景。天候が良ければ3年前に今回と同じメンバーで登った赤岳を主峰とする南ハケ岳連峰や、浅間山、霧ヶ峰、北アルプス、中央アルプス、南アルプスまでも360度のパノラマが特長という。山頂の蓼科神社の奥宮の石祠に登頂成功を報告し、家内安全を祈る。寒い中、早々に下り、山頂ヒュッテへ。しばらくして、屋外トイレに行くと、遠くの山々が見える。ヒュッテ主人に聞くと、皆さん日頃の行いが良いので天候が急変した。アルプスまでも見えるだろうとのたまう。直ぐに再度、山頂へ。山頂からは雲がかかった10度位を除き、正に感動の大展望。



【蓼科山荘にて】

17:30 夕食。カレーに豚カツとキンピラなど野菜類と豪華。同宿者は天候が良くないためだろう、我々以外に男女2名のみ。



2食付8,300円。【岩の急坂道・鎖場を上る】【蓼科山より北横岳(左)と南ハケ岳連峰(遠方)】【蓼科山より南アルプスだろ望む】

8月28日(水)：朝食はご飯、焼き塩鮭と半熟卵に味噌汁、海苔。外は予報通りに曇りで、今にも降り出

しそう。計画では双子山 2224mに登り、双子池ヒュッテ泊。翌日、北横岳 2480mに登った後、北八ヶ岳ロープウェイで下山であったが、ヒュッテ主人の勧めもあり、3人協議の上、七合目登山口へ引き返すことにした。7:30 時々小雨の中、下山開始。11:18 七合目登山口に無事着。さらに山道を下り、ゴンドラリフトに山頂駅で乗り、山麓駅に着。観光案内所の紹介により、ソバで遅い昼食をし、白樺リゾート池の平ホテルへ。2食付 13,000 円。露天風呂付大温泉浴場で汗を流し、何でもありの豪華バイキングと飲み放題のビールで夕食。



【夢科山登頂を祝して乾杯】

8月29日(木)：起床し温泉入浴。朝食もバイキング。さすがにアルコール類はないが、たらふく食べた。ホテル横からバスに乗り、茅野駅。自宅へ。

今回の登山は、天候が優れず途中下山となったのは残念だったが、眺望のない登山より、温泉につかり、たらふく飲み食いも、また楽しきや。

(3) 富士山

60歳定年退職の約1年後、2004年から続けてきた富士登山が今年16回目を迎えた。いずれの回もバスで4ヶ所にある五合目登山口まで行き、登山ルートに登った。富士宮ルートの途中からプリンスロードを経て御殿場ルートに移るルートを加え、山頂への上りと下りの組み合わせを変えることで変化を持たせてきた。しかし、御殿場ルートの五合目からプリンスロード近くまでの上りについては経験していない。原因は、けっして厳しくない登山道だが最長距離のためである。ちなみに各登山ルートの五合目から山頂までの所要時間を比較すると、富士宮ルート(山頂：浅間大社奥宮)5時間10分、吉田ルート(山頂：久須志神社)5時間55分、須走ルート(山頂：久須志神社)6時間55分、御殿場ルート(山頂：浅間大社奥宮)8時間20分である。そこで、2010年までは山小屋宿泊を1泊とし、2011年からは2泊としていたが、今年は3泊とし、御殿場ルートからの登頂に挑戦することにしました。

9月2日(月)：9:35 自宅を出発。14:15 御殿場口新五合目 1480mに着。35分歩きで、大石茶屋に宿泊。夕食 18:00。2食付 8,000 円。昼食用むすび弁当 500 円。缶ビール 350ml 500 円。宿泊者は筆者以外に1名のみ。

9月3日(火)：4:30 起床。丹沢山地を覆う雲の上に昇るご来光を迎え、赤色の富士山のモルゲンロートも仰ぎ、5:45 出発。7:15 新五合五勺 1920mに着。歩いて歩いても近くの風景は変わらないが、富士山の双子山や宝永山が見えだし、愛鷹連峰が望まれるようになり、駿河湾や伊豆半島を望むことも出来た。早くも 14:30 予約したわらび館 3090mに着。17:00 夕食。お替わり自由のカレー。缶ビール 350ml 600 円。



【愛鷹連峰と駿河湾・伊豆半島】

9月4日(水)：4:30 起床。ご来光と赤く輝くモルゲンロートの富士山を仰ぎ、6:00 出発。9:54 遂に水が湧き出る銀明水。10:10 山頂 3715mにある浅間大社奥宮。参拝し、16回目にして初めて、御朱印・墨書を頂いた。お鉢を右回り。11:05 今年も感動の日本最高峰剣ヶ峰 3776mに立った。持参のパンなどで昼食をして、12:00 剣ヶ峰を後にし、13:05 須走・吉田ルートの山頂・久須志神社 3720m。須走ルートを下山。14:55 八合目 3370mの宿泊予約した胸突江戸屋。夕食はカレーと味噌汁。缶ビール 350ml 600 円。2食付 7800 円。【浅間大社奥宮】 【御朱印・墨書】 【剣ヶ峰 3776mに立ち一番と指差す筆者】



9月5日(木)：4:30 起床。雲の上からのご来光を迎え、モルゲンロートで赤く輝く富士山を仰いだ後、むすび弁当で朝食。5:30 出発。登・下山道を下り、7:15 七合目 2920m・太陽館。下山道の砂走りに移り、火山灰・砂れきをズズー、ズズーと下る。9:00 砂払五合目。10:13 古御嶽神社、無事下山を報告。10:20 須走五合目 1970m。富士山保全協力金 1,000 円を寄付。菊谷でラーメン 900 円、生ビール中ジョッキ 700 円で乾杯・昼食。バスで JR 御殿場駅。自宅。【朝陽によるモルゲンロードの富士山】



以上

6. 近況報告

「丘の上 幸西ワイナリー」オープンしました（近況報告） S56 工卒 幸西 義治

前回のOB会報（24号2019年8月）に東京支部の秋山事務局長からご紹介いただいた「丘の上 幸西ワイナリー」をお陰様で9月15日にオープンすることができました（長野県塩尻市片丘 9965-6）。当日は沢山の方々にお祝いに来ていただき賑わいました。



オープン時



家族総出で対応

そうこうしている内にブドウの収穫、醸造仕込みの時期に。大きな台風も来ましたが、幸いこの辺りは災害はありませんでした。先輩の小関さんや同期の宮園君も遠くからお手伝いに来ていただき、収穫、初醸造の仕込みができました。今回仕込んだワインは来年の春に販売する予定です。



小関さん



ブドウの除梗破碎



小関さん、宮園君

今、販売しているワインは昨年、委託醸造したもので対応の時間が取れないため卸し、ネットショップは止めて店舗のみで行っていますが、そろそろ始めようと思います（HP: <https://r.goope.jp/kounishi-wine>）

オープン後、見学に来られる方の接客（先日 '18 準ミス・ワインが来園、彼女のお父さんが私の息子と同じ職場という奇遇！）、東京目黒のホテル雅叙園で行われた 2019 ミス・ワイン日本大会&塩尻市60周年記念「SHIOJIRI GRAND WINE PARTY」に出店等の畑、醸造作業以外にも忙しくしております。



ミス・ワインと



ホテル雅叙園にて



店舗で

信州は山には雪が降り、もうすぐ冬になります。これからは凍害防止のブドウへのワラ巻き、剪定、ワインの管理、瓶詰めと作業が続きます。小さなワイナリーですが、お店は一年中やっておりますのでスキー、温泉、登山など信州にお越しの折には是非お立ち寄り下さい。お待ちしております。



近況報告

昭和48年経卒

小田二郎

碁会所で子供囲碁教室の無償講師を務めている。きっかけは、出入りしている碁会所で（客が少なくほとんど閑古鳥状態）席亭にどうせ午前中は誰も客は居ないのだから、子供囲碁教室でもやってみたらと私が提案したところ、小田さんが教えてくれるならいいよということとなり、一応碁会所の名称が囲碁将棋センターとなっているところから、教室も囲碁将棋教室ということで、席亭が将棋で私が囲碁の講師という暗黙の了解のもと始まったのが発端である。しかし、席亭は将棋が私より少し強い位で初段を自称しているがとても初段の実力もない程度で、ほとんど将棋は放置状態。囲碁と将棋では断然将棋の希望者が多いのであるが、そこでの席亭の弁がふるっている。うちは将棋と囲碁両方を教え子供の適性に合ったものに向かわせますと、言いながらその実はもっぱら、将棋を餌に碁をやらせるのである。教室は土・日曜日午前中10時からと、別途特に見込みのある子（現在3人）にのみ声をかけ木曜午後小学校が終えてと、日曜午後2時からいずれも5時くらいまで教えている。延べで二か月しか来なかった子を含め今まで100人超の子を教えたその中で、一通り碁が打てるようになった子が10人位といったところである。有段者レベルはその半分ぐらいで、“一通り碁が打てる”というのがとにかく第一関門である。一通り打てるというのは、自分たちで碁を打ち終わり後の整地まで出来ることである。一通り碁が打てること、これが初心者にはことのほか難しい。碁を知らない方に説明するのも難しいが、かいつまんで説明すれば、碁は19本の線を縦・横交差させた点に黒石・白石を交互に打ち合い石で囲った陣地が広い方が勝ちというゲームで、その際相手の石に自分の石が囲まれると取り上げられ、もちろん自分の石が相手の石を囲えば逆に取れる。取られた石は結局後自分が囲った陣地に埋められることになる。（その分自陣は狭くなる）一通り碁が打てる目安として終わりが分かることであるが。ゲームの終わりの判断になる双方の陣地の増減に関する手があるか否かの判断が初心のうちには難しいのである。整地とは囲った陣地の内の交差点の数を数えやすく四角形に整形するのである。この際計算しやすいように四角にするのだがこの点は棋力には関係ないと思われるが、不思議と整地の上手下手が棋力に比例する。初心者の整地は計算するのに苦労する。子供にはいきなり19路盤の正規の碁盤でやらすと広すぎるので、そこで9路盤や13路盤で打たせているが、これでも難しい。入ってきた子にルールを説明し、4子石を先に子供に置かせ（下手が石を置くのはその分下手有利にし、対等に勝負できるようにするのである）私と対戦するがまず勝てないのである。9路盤に4子置いて勝てるまでに数か月かかる子もいる。交互に打つという感覚が理解できず、2度続けて打てば私の石を確かに取れるが、自分が打つと次は相手の番なので相手の石を取る前に自分の石が取られてしまうということに気づかないのである。ルールは非常に簡単・単純な為、その分楽しさが判るまである程度の上達を必要とする。囲碁を途中で挫折した人は子供に限らず大人でも楽しさが判るレベルに達しないからである。上達すれば上達すほど面白さが増し一度はまればこれほど面白いものはない。将棋は王を詰ますか詰まされるか2者択一というか、オールオアナッシングのところがあるが、碁は囲った陣地の広さを競い合うので負けても僅差ならばそう落ち込むこともなく、勝負結果がソフトな面がある。将棋を趣味としていた人が年をとって囲碁を趣味とする例は多々ある

が、その逆は聞いたことも見たこともない。将棋は厳しすぎるのである。しかし将棋のほうが具体性があり入りやすい面がある。教室にくるぐらいの子は駒の並べ方や進み方はほぼ全員知っている。王を詰ませるという具体的で、駒をとるという点で目標があり入りやすいのだろう。しかし将棋も戦法や定石なんかになると非常に難しく私の手に負えない。

昨今中学生で将棋のプロになった藤井聡太や囲碁では9歳でプロになった仲邑菫のおかげで多くの親が習わせたいと来るが教える私が言うのも変だが、結果は先に述べたとおり誰でも強くなれるわけではないのである。将棋や囲碁を子供に習わせる効能に集中力がつくと言われるが、見ていると集中力があるから強くなるのであって将棋や囲碁をやって集中力がつくのではない気がする。小学生低学年で入る子（高学年なると塾で忙しい）が多く中には幼稚園児もいる。入ってくるのは嬉しいのだが小学生も3年生ぐらいまでは、まだまだ幼稚園児の延長状態で、集中力はまず15分程度で子供はすぐ飽きるし、飽きるといろいろ騒ぐので当初は非常に対応に苦慮した。対応策としては、ここは学校でないのでしたくなかったら帰いなさいと言って、それ以上相手にしないことである。騒ぐのはこちらの注意を向けさせたいというのに最近気づいた。犬のしつけで、来客があると玄関に出てきて吠える犬を、どうしつけるかをテレビで見たことがあるが、相手にせず無視するというのがあったが、まさに子供もその通りである。それと教室に通ってくるのは、一つには碁会所が託児所替わりとなっている節がある。稲毛駅そばで近くにスーパーや商店がある立地の良さから子供を預け親は買い物をしているのである。子供は子供で騒がず子供同士で碁や将棋以外の事で遊んでいても注意されないのだから居心地が良いのだろう。学校の先生はそうはいかないだろう。いつまでも九九が出来なかったり、割り算ができないでは苦情になるから、小学校それも低学年の子の担任の先生はよくやっていると思う。私の場合はやる気のある子には教えるがやる気のない子には無理して教えないという主義である。

教室の今までの実績はというと、3年前小学生の学校別団体戦で千葉県代表（千葉からは2校）となったこと、昨年10月に日本棋院の院生試験に小学6年で合格し現在院生をしている子を輩出したことである。小学校の団体戦は3名でチームを作り各3名が同时对戦し2勝すれば勝ちとなるのである。同じ小学校で3人碁が一通り打てる子を揃えるのが大変なこと、一人は必ず強い子はいるものの、あとの2名を調達するのが難しい。この時は運よく教室に通う子で同じ学校で同学年友達同士3人が揃い参加することができたのである。日本棋院で行われた全国大会では予選リーグ1勝2敗で決勝トーナメントには進出出来なかったが実力はまあこんなものだろう。

昨年10月6年生の時院生（院生とはプロの卵で日本棋院東京支部に50人前後プロになれるのは女流卒を除き年4人前後）になった子には特別に思い入れがある。院生になるには日本棋院の試験に合格する必要がある。実力としては年齢にもよるが、小学生でもアマの5～6段は少なくともないといけない。教室を始めた当時将来プロを目指す子（院生）を育てたいと話したら、ある人（私より若干強い、親は碁会所を営んでいた）から小田さんでは絶対無理だと言われたことがある。しかしいつか一人ぐらいはと思っていたのが遂に現れたのである。まさに、出藍の誉れである。ポツチャリしたおとなしく非常に寡黙で真面目な子である。この子も最初は将棋を習いたいということで3年生の時来たが、碁しか教えず碁にはまったというか、こちらがはめたのである。風鈴（13子）の置き石から始め、9子局からは3回連勝すると置き石一つずつ減らすという方式で確か2子局ぐらいの時コテンコテンに打ち負けした。2子局ぐらいになると殆どその差はなく相手の意図も理解できるし、相手が手に込めた思いも判る。その時はさすがに少しへこんでるなどは思っていた。その子が翌日予定外でそれも学校から直接また打ちに来たことがある。席亭から急遽来てくれと電話があり対戦した。子供を迎えに来た母親が、私にこっそり話すには昨日は泣いて帰ってきて暫く部屋から出てこなかったと言うではないか。コテンコテンにやられたのが、相当悔しかったのだろう。日本棋院発行の学校囲碁指導員ハンドブックには子供に指導碁を打つ場合一方的な勝負にならないようにすることとあるが、これはと思う子には私の場合勝っていても最後まで手を緩めず一方的な結果になろうと徹底的に打ち負けすことにしている。それに反発しない子は見込みがないと思っている。反発してきたことでいよいよ強くなる確信をこの時得た。大人しそうに見えて内心は闘争心を持っていたのだ。その日の勝負はもちろん子供が勝って母親とニコニコして帰っていった。この子の碁は教える私とは全く違う棋風で力で押すタイプでなく、全く真逆である、ひょっとして私を反面教師にしていたのかもしれない。私を抜いたのはこの暫く後でこの頃に急に強くなった。その後は私より強い人と対戦させ専ら私は棋譜を取ってやり、手助けをすることとした。子供と碁を打つとおしなべてまず例外なく早打ちであるが、この子だけは最初からじっくり考えるタイ

ブであった。一般的な大人が、まず遊びで打つ場合1時間もあれば十分で時には30分で打っている。通常3分でも考えれば素人の場合長考とみてよいだろう。この子の場合3分5分はざらで、長い場合一手打つのに30分もあった。他の子には碁は早打ち競争と違うからゆっくり考えて打てということがしばしばであるが、この子には一度も言うことはなかったし、せっかく子供が真剣に考えているなかで逆に早く打てとはとても言えなかった。本なんか載っているのを読むとプロの子供時代は皆超早打ちなのである。碁に強い人からは子供は早く打てないと駄目だ、直観力が重要だと聞かされるが長時間集中し考えられるのもそれはそれで良いではないか。この子には是非プロになってもらいたい。

今年の3月に先に述べた全国大会に出た時の小学生だった子（そのうち一人は幼稚園から）のうち2人が、高校受験が終わったということで3年ぶりに碁会所を訪ねてきてくれた。背も私より高くなっていて3年で大人びて青年の顔つきであった。また8月には院生になった子が母親と訪ねてきてくれた。2件とも嬉しい気持ちは何故か湧いた。学校の先生は卒業生が訪ねてきてくれると嬉しいと聞いたことがあるが、こんな感じなのかなと思った次第である。これを糧に次なる院生さらにその先のプロを目指す子を育てるつもりだ。

最後に今までの話と関係ないところで、百名山登頂残りが一桁を切り、70歳までに完登できそうである。次回、第二の院生輩出の報告と併せて完登の報告ができればと存じます。

秋のプチ旅行記

川地 翔子（H26年 農学部卒）

ようやくうだるような暑さが和らぎ、山々が秋の色濃く香りを纏い始めた頃、私は初めて山口県下関市にある“鬼ヶ城”へと登頂した。

ある日、ふとどこかの山に登りに行きたいと思い、手に持っていたスマートフォンで「山口県」「山」と検索。検索結果を斜め読みしていると、その特徴的な名前に目が留まった。そういえば、まだ登ったことがなかったなと思い、もう少し詳細に調べてみる。標高は600mちょっとで、山行時間は上りが約1時間半。なるほど、最近体が鈍っていた私には丁度良さそうな山だ。何より、頂上からの眺望が良いというところが高ポイントだ。近隣には川棚温泉もあり、下山後の楽しみもある。家から近すぎず、遠すぎないこの距離も小旅行みたいで何だかワクワクする。検索してから十数分、私はこの山を今回の目的地へと決めた。

朝8時ごろに家を出て車を走らせること約1時間半、登山口へと到着した。木々に囲まれた空き地のような駐車場には1台の軽トラックと乗用車があるのみ。そんなに早い時間でもないため、もともとそんなに登山者は多くないのだろう。山登りの準備のために車から降りると、ひんやりとした秋の風が頬を撫でる。登山靴に履き替え、靴紐を締め、車の傍で軽いストレッチを終えると、私はゆっくりと頂上に向かい登り始めた。

道は、驚くくらい綺麗に管理されている。先日、東日本を中心に各地で猛威を振った台風19号が通過したばかりだが、その形跡もまるで感じられない。勾配は緩すぎず急すぎず、運動不足ぎみの私でもそんなに息は上がらない。程よく冷えた空気に混じる鳥のさえずりや柔らかく注ぐ木漏れ日を楽しみながら、軽い足取りで進んでいく。すると突如、聞きなれない甲高い音が耳に飛び込んできた。歩みを止めはしなかったが、歩きながら「はて？」と軽く首をかしげる。機械音には程遠いし、鳥の鳴き声ともちょっと違う。しばし思索したが、その音はかなり遠くから聞こえたため、気にするまでもないかと思い頂上に向かって歩みを進めた。

その声の正体が明らかになったのは、登り始めて40分ほど経った頃だろうか。道に落ちているドングリや松ぼっくりに小さな秋を感じていると、カサリと近くで何か動く音がして思わず足を止めた。イタチやタヌキか？イノシシでなければ良いが・・・と思いつつ、音のした方角へ目を遣ると50mほど離れたところに立派な角を持った雄鹿が守っていた。瞬間、ドクリと心臓が大きく跳ね、山に溢れていた様々な音が消えた。互いの間にはピリッとした独特の緊張が走り、息を飲んだ私の全神経はその雄鹿に注がれた。時間としては数秒間だったろうか。はっと我に返った私は、逸る心を抑えつつ刺激しないよう慎重にその場から移動し始めた。臆病な動物だとは知っていても、もし彼がこちらに向かって来れば私なんてひとたまりもない。幸いにも、その願いは通じたようで、そろりと動き始めた私を見ると雄鹿も私と反対方向に駆け出した。よ

うやく自然と息をつけた私は、十数歩歩みを進めた後に、何気なく鹿が逃げていった方角に目を向けた。すると、遠く離れたところで雄鹿もこちらの様子を伺っているではないか。なんだか息がぴったりだなと無性に面白おかしくなった私は、この貴重な体験を胸にしまい再び頂上に向かって歩みを進めた。

その後は、何事もなく順調に進み、稜線に辿りつくとは尾根伝いに歩く。途中に設置された案内板によると、白滝乃頭を通り川棚温泉の方まで縦走もできるようだ。「次は縦走も良いかもしれないな」などと思いつつ歩くこと数分、木でできた小さな小屋が見えてきた。鬼小屋と呼ばれるこの小屋の中には、鬼のお面が飾られているそうだ。見たところ扉はしっかりと閉められているので、今回は外観を見るだけに留めそのまま先へと進む。そこから頂上までは、先ほどの緩やかな道とは変わり、少し急で岩肌が剥き出しになった箇所も多くあった。足は意外と大丈夫そうだったので、休憩することなく一気に登る。そうして木々が生い茂る道を抜けると、ぱっと視界が開け、ます鮮やかな青が目飛び込んできた。山頂に到着だ。今までの疲れが一気に吹き飛ぶこの瞬間が、私が山に登りたいと思う一番の理由だ。頂上は情報にあったとおり綺麗に整備されており 360° 見渡せる。収穫期を迎えた稲の黄金色や山の緑色、海と空の青色のバランスが何とも見事だ。さらに、空に浮かぶ雲や頂上に生えるススキが彩を添える。向こうの山には風力発電の風車が緩やかに回っており、海の上には観光名所としても有名となった角島がブカリと浮かんでいる。頂上には、私の他に 2 人ほど先客がおり、その一人から聞いた話によると空気が澄んでいると真っ白な角島大橋や大分県の由布岳も見えるらしい。ここでお昼寝をしたら気持ち良いだろうなどは思ったが、時間はお昼前。私のお腹が空腹を訴え始めていたので、お昼寝は次の楽しみに取っておくことにして、頂上の景色を十分に堪能した後下山を開始した。

下山は、思った以上にスムーズに下れ、あっという間に登山口まで戻ってきた。こうして、私の初めての鬼ヶ城山行は終了した。帰りは少し寄り道して、頂上で出会った女性がお薦めしてくれた川棚温泉の宿で登山の汗を流す。少し小道に入ったところにある隠れ家のようなその温泉宿は、時間帯が良かったのかほぼ貸し切り状態だ。一人暮らしの私は、普段シャワーで済ますことも多いため、ここぞとばかりに大きな浴槽で四肢を伸ばして登山の疲れを癒す。少しとろりとしたお湯は身体を芯から温め、何ともいい気分だ。ホカホカした身体とホクホクとした気分で私のプチ旅行は幕を閉じゆっくりと帰路についた。



随時原稿等募集中 編集部よりのお願い

編集部では、随時原稿などを募集しています。OB 通信に掲載されるタイミングでは OB 通信に掲載いたしますし、それ以外の場合は HP に掲載いたします。A4 で 1~2 ページ程度でお寄せ下さい。送付先は、生原稿の場合は古谷宛郵送で、データベースの場合は、shin-cas@c-able.ne.jp までお願いします

7. 同期会報告

～ 昭和57年度卒部の同期会 2019年5月3日開催 ～

昭和57年工学部卒 田原 宏

前回の同期会の終わりに、今回は還暦を迎える年に同期会をやろうという約束をして、2019年5月3日に湯田温泉で開催しました。まず、湯田温泉駅に降りると見たことのある男性が数人いましたが、頭の髪が少なくなったり、体形が変わったりして、確か〇〇だと思うけど・・・やはり〇〇か。

“久しぶり”が合言葉でした。会場は、湯田の「炭火居酒屋 D'rise」で1次会、2次会を行いました。出席者は32名の出席で、2名の欠席でした。東京の中野君が段取りをさせていただきましたありがとうございました。このたび還暦を迎え、すでに会社を定年退職した人もいれば、今年定年退職の人もいて、第二の人生のスタートの話に花が咲きました。引き続き同じ職場で延長する人、別会社で再出発する人、勤めていた会社の子会社に行く人、家業のお寺を継ぐ人、起業を考えている人、定年退職で実家に戻り親の看護をする人など様々なスタートラインについて、これから年金の出る5年後までは働く人が多いかなという感じでした。次に多い話は、子供のことや子供の結婚、親の介護、山の話もありました。何人かは今も北アルプスに行っている人もいて、体力的にも時間的にもうらやましい限りでした。私たちの同期会は5年ペースで行っていますが、これからはもう少し短いペースで同期会を実施したり、山に登ったりする企画もでてくることでしょう。そのためにも、まずは健康第一に行動していくことです。今回はあまり健康についての話は出ませんでした。今回は全員元気に参加できるように、健康の秘訣について話すことが多くなることでしょう。同期会の写真は丸山君が撮影してくれてありがとうございます。今回の写真を閲覧したい方は、下記に置いてあるそうですのでご覧ください。

<https://30d.jp/gangfan/752>



8. 現役報告

2019年度 夏合宿報告

SL 農学部2年 佐々木結香

今年は8月23日～27日の期間で、北アルプスの燕岳・大天井岳・常念岳を縦走する夏合宿を行いました。7人のメンバーからなるAパーティーと6人のメンバーからなるBパーティーの計2パーティーで挑戦しました。(13人のうち、2年生は5人、1年生は8人)

アプローチ

早朝に先輩方に見送られて、湯田温泉駅を出発しました。そこから1日かけて、鈍行列車と特急列車を利用し、長野県松本駅に到着しました。電車の中では他の乗客に迷惑が掛からないようマナーを守り、メンバーと過ごしていました。その後、松本駅周辺で各自明日の朝食を買い、カラオケボックスで就寝しました。

1日目

松本駅から穂高駅まで電車で移動し、そこからバスに乗って、中房温泉に到着しました。パーティーごとで登山届を提出して、安全第一に登ることを思いながら登山を開始しました。1日目は、燕岳を目指しました。最初の急な登り坂で、足にかなり負荷がかかり、きつかったのですが、合戦小屋で食べたスイカが、とても甘くておいしかったため、きつい気持ちが吹っ切れました。それから、1時間登ると、燕山荘に到着しました。天気が曇りだったため、北アルプスの山々に所々ガスで覆われていたのですが、疲れを忘れるくらい綺麗でした。そして、昼食を食べて、燕岳に登りました。燕岳の行き道に、イルカ岩・眼鏡岩を見ました。燕岳に着くと、メンバーと一緒に写真を撮り、山の景色をみて感動しました。燕山荘に戻る帰り道に雷鳥を近くで見ることができ、とても嬉しかったです。



2日目

本来の予定なら、燕山荘から大天井岳に向かうはずだったのですが、1日目の夜から雨・風がひどくなり、その状況が夏合宿中ずっと続く予報でした。そのため、2年生や先輩方と話し合い、雨・風が激しい状況で大天井岳に向かうと、低体温症や滑落に遭う危険性が高いため、安全第一を取り、燕山荘から中房温泉に下山するという判断をしました。その後、朝食をとり、雨の中テントを片付けて、下山を開始しました。雨で登山道が、滑りやすかったのですが、みんな怪我無く無事に下山をすることが出来ました。中房温泉に到着後は、手配したバスで松本駅へ戻り、解散しました。

今回の夏合宿は、悪天候の影響で1日目の登山行程しか進めることが出来ませんでした。特に私たち2年生は、去年に続いて2日目に下山という判断だったため、今回の下山は、去年以上に悔しく、自然の厳しさを感じる合宿になりました。しかし、感情だけで判断せず、天気予報や山小屋の人など多くの意見を聞いて冷静に判断することが出来たことは良かったと思いました。また、みんなが、夏合宿までの日々のきつい練習を真面目に取り組んでいたため、登山中に体力が持たないメンバーが出ず、時間通りに登ることが出来たと思いました。最後に、今回の夏合宿にご協力して下さった先輩方、本当にありがとうございました。

ピストン組

PL 人文学部二年 炭本円

今年の8月23日から29日にかけて、立山にて夏合宿を行いました。今年は1年生3人、2年生6人の計9人で挑みました。

アプローチ1

当日の早朝、全員部室に集合し荷物確認を終えた後、湯田温泉駅に向かい先輩に見送られながら出発しました。途中、乗り換えが上手くいかず二手に分かれてしまいましたが、臨機応変に対応し無事に合流しました。金沢駅に着く頃には疲れ切って次の日に備えて早めに就寝しました。

アプローチ2 1日目

金沢駅から富山駅まで電車で予定通り到着し、電鉄に乗り換え自然豊かな風景を眺めながら立山へと向かいました。その後はケーブルカーに乗った後、室堂ターミナルまでの直行バスを利用しました。バスを降りた途端あまりの寒さに驚き、全員が夏着から冬着へ着替え始めました。室堂ターミナルから雷鳥沢キャンプ場に行くまで、景色を見ながら歩くとあっという間に到着しました。到着後はパンとスープを食べ、夜にはカレーを作り就寝しました。



2日目

□時に起床しエッセンを終えた後、一ノ越山荘へ向かいました。到着すると風が非常に強く、霧も濃くなっていました。風の強さと足場の悪さに苦戦しながらなんとか雄山に着きましたが、あまりに寒かったため少し休憩をとってすぐに大汝山へ向かいました。頂上で記念撮影をし、山小屋で体を温めたのちに真砂山、北峰、別山乗超へ不安定な足元に気を付けながら進んでいきました。雷鳥沢キャンプ場に



に近づくにつれ霧がはけていき、まだ溶けていない雪や鮮やかな山肌などを望むことができました。

3日目

この日も変わらず早朝は気温が低く凍えていましたが、みんな黒部ダムを楽しみにしていたため元気に出発しました。北峰は傾斜があり、下に石を転がさないよう気をつけながら登って行きました。東一ノ越から黒部平駅に向かうまでの道は歩くのが怖いほど細く、足場も悪かったため声を掛け合いながら慎重に進んでいきました。目的地が見えないまま、2時間半歩き続けると徐々にケーブルが見え始め、到着した頃にはみんな気力を失っていました。ですが、黒部ダムに着くと大迫力の放流に感動し疲れも飛びました。最終的に予定よりも早くキャンプ場に着了いたため、各自休憩を取りながら夜はパスタを作って食べ就寝しました。



4日目

合宿最終日は4時半に起床し、協力しながらテントを片付け6時ごろにキャンプ場を出発しました。室堂ターミナルまでの足取りは疲れが見えましたが、最後に全員で記念撮影をし、バスや電車を乗り継いで11時ごろに富山駅に着きました。



今回の夏合宿のピストン組は、去年ピストンに参加した人がおらず始めは不安でしたが全員で協力しながら怪我もなく終わることができました。夏合宿に初めて参加した1年生も積極的に行動してくれてとても心強く、頼もしかったです。2年生同士は事前の準備から話し合いを重ね、このように無事に終えてとても安心しました。綺麗な景色に囲まれながら懸命に山を登ったことは忘れられない経験になりました。最後に、繰り返し安全対策委員会を開き助言をくださった先輩方、合宿中も電話連絡を受けていただいた先輩方、本当にありがとうございました。

2019年度 海合宿報告

人文学部2年 仲村茉奈

今年の8月も例年通り、萩の菊が浜にて海合宿を行いました。日程は8月8日から9日の1泊2日でした。目的は夏合宿に向け、部員の一致団結とOBの皆様との交流を図ることでした。県立大学のワンダーフォーゲル部の方々やOBの方々も参加してくださり、総勢46名の参加者が集まってくれました。

1日目

山口大学の本学の部員は山口大学に集まり、例年とは異なってレンタルバスでの移動ということになりました。工学部の方や県立大学の方には所有車で萩まで来ていただきました。今年は車を所有する本学の部員がいなかったのですがレンタルバスを借りることができ、スムーズに移動が行えたので良かったと思います。10時ごろに萩にある菊が浜ウィークリーレンタルハウス「海の家」に到着しました。その後、海水浴をする人や萩の町を観光する人、室内でのんびりと会話に興じる人など思い思いに自由な時間を過ごしていました。自由時間の間、工学部や合宿を計画した部員と1年生を連れてBBQの買い出しを行いました。18時からBBQを行い、火をつけるのに苦戦しながらも部員全員で協力しながら、無事成功させることができました。BBQの後は花火をしたり、星を見ながら語りあったりと充実した時間を過ごすことができました。もちろん部員同士で会話をし、交流を深め合うこともできたので良かったです。



2日目

午前中は皆、それぞれで起床し朝の海を眺めたりしていました。その後は参加者全員で施設の清掃を行いました。帰り際に参加した方々で萩の海を背景に写真を撮ることができました。海合宿で、山口大学の部員同士はもちろん県立大学の方やOBの方ともたくさん談話することができたので目的は達成することができました。合宿に関わってくださった方々、本当にありがとうございました。



9. 事務局挨拶

人文学部4年 三井 大明

はじめに、10月19日のOB総会では現役生一同大変お世話になりました。今年は現役生20名で参加させていただきましたが、会場では皆様から優しくお声掛けいただき皆大変楽しい時間を過ごすことができました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます、ありがとうございました。

さて、11 月も終わりに近づき今年は昨年より夜寒が身に染みるように思います。大学生活も残りわずかとなり、卒業と別れの季節が近づいていることを皆実感しています。ワンダーフォーゲル部に入部したのもつい昨日のこのようで、仲間たちとはこの大学生活で得たものを思い返しながら過ごしたいと思います。

この 1 年間 OB 会で事務局長を務めさせていただき、様々な方との交流のなか、ワングルの歴史、また OB の方々のワングルに対する想いを感じ、大変有意義な時間を過ごすことができました。会長の古谷様をはじめ、山口支部の方々にはこの 1 年間を通して後輩の三和共々大変お世話になりました。度々ご迷惑をおかけしたと思いますが、皆様のサポートのおかげでこの 1 年間やってこれたと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、この 1 年間、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。末筆ながら今後の OB 総会のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

なお、2019 年 1 月からの次期事務局長は以下の通りとなります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

次期事務局長 三和大地 理学部 3 回生

連絡先 〒753-0841 山口県山口市吉田 1 6 7 7-1 山口大学体育会内 ワンダーフォーゲル部

【 ページに余白ができたので、私の近況報告を書かせていただきます 】

萩往還ガイド

やまぐち萩往還語り部の会 エグゼクティブガイド 古谷眞之助

萩と三田尻(防府)を結ぶ歴史街道・萩往還(全長約 53km)をガイドするようになって早くも 10 年を迎え、この間にガイド回数は 136 回となった。大河ドラマ「花燃ゆ」が放送された 2015 年には、萩往還を歩きたいという人がどっと押し寄せて、我々ガイドは殺人的なスケジュールを強いられたのも懐かしい思い出である。もちろん、現在は落ち着いていて、静かな街道歩きを楽しむことができる。これまでワングル関係では、九州支部の皆さん 5 名、山口支部の皆さん 6 名をガイドさせていただいたし、2015 年の山口総会では、「維新策源地コース」と称する山口市内の歴史ウォークに 36 人の方をお連れする機会もあった。

外国人のお客様はこれまでわずかだったが、今年に限ってはどのような風の吹き回しなのか一気に増えて、すでに 6 組 40 名の方をガイドする機会があった。外国人向けガイド経験は全体の 1 割弱、10 年間で 12 組の外国人ガイド経験だから、今年はある意味異常である。今年おいいただいた方は米、英、豪、カナダ、シンガポール、スイス、ニュージーランドからのお客様で、皆さん一通りの幕末史を勉強してから参加してくれているのが有難い。「徳川将軍」も「江戸」「幕末」もそのまま通じる。特にスイスからの男性は元高校の歴史の先生で、とても詳しくて吃驚させられた。ただし、参勤交代制度や幕末の詳しい長州藩の歴史は説明するしかない。あらかじめ英文で解説文を作り、それに写真やイラストなど目で訴えるものも用意して度胸英語でガイドするのである。もちろん正式な通訳がつくことがほとんどだが、できるだけ生の言葉で説明したいと思っている。最近では「まずまずのレベルかな」と自分でも思えるようになった。来年も外国からのお客様が増加するようであれば(そうなって欲しいものだが)、しっかり本腰を入れて歴史の裏話まで解説できるようになりたいと願っている。萩往還語り部の定年は 75 歳なので、まだあと 10 年近くある。体力が続く限り、私の場合は山歩きではなく街道歩きとガイドを続けたいと考えている。もし、萩往還を歩いてみたいと思われる方がおられたら、是非ご連絡下さい。



10. OBの皆さまへのお願い

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翔会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2018年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翔会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2019年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部 鳳翔会

個人会員年会費 2,000円 (夫婦会員年会費 3,000円)

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いします。新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

(2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望

される場合は、会長または事務局長まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

8月発行分 7月中旬まで 12月発行分 11月中旬まで

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居

先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長までご連絡願います。

11. 2020年 本部・支部役員連絡先

・OB会会長

古谷 真之助（経・昭和52年卒）

〒 753-0214 山口県山口市大内御堀5丁目-6-10

携帯 090-7124-0032（家電 083-923-2364）

E-mail shin-cas@c-able.ne.jp

注・以下役員連絡先については個人情報保護の観点から、すべて削除しています。OB会に関するお問い合わせ等は、上記連絡先までお願い致します。

・OB会副会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）

三國 彰（工・昭和55年卒） ※新副会長兼会計担当

・OB会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒）

石川 忠（教・昭和49年卒）

坂田 信一（理・昭和57年卒）

田原 宏（工・昭和57年卒） ※新任

浅野 哲郎（工・昭和61年卒） ※新任

・OB会事務局長

三和 大地（理・3回生）

連絡先 〒753-0841 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内 ワンダーフォーゲル部

・会計監査

平野 展康（経・昭和59年卒）

齊藤 昌彦（農・昭和60年卒）

（東京支部）

支部長 城戸 賢嗣（経・昭和49年卒）

副支部長 高田 哲生（工・昭和49年卒）

事務局長 秋山 高弘（経・昭和53年卒）

（関西支部）

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

（山口支部）

支部長 田原 宏（工・昭和57年卒）

（九州支部）

名誉支部長 永沼 嗣朗（経・昭和39年卒）

支部長 龍 純二（文理・昭和50年卒）

事務局長 天野 雅紀（経・昭和61年卒）



編集部よりお願い

皆さんの近況報告、山行レポート、同期会活動、趣味や余暇活動、エッセイなどの原稿や写真等を随時募集しています。山行に限定しませんので、ご自分に関する話題なども上記古谷宛、お気軽にご投稿下さい。お寄せいただいた原稿・写真等は、OB通信もしくは鳳翔会ホームページに順次掲載して行きます。また、鳳翔会ホームページも是非ご覧下さい。アドレスは <https://houben-kai.sakura.ne.jp/>です。